

スタンション方式では必要量を与えない場合でも、繋がれているので食べないでがまんさせられるが、ルーズハウズイングでは不足であると、弱い牛は食いまけをするので、粗飼料は必要量よりも余裕をもつていることが必要である。

7. 管理労力と施設費：管理労力はスタンション方式よりも非常に少なくすむことは明瞭である。

搾乳牛20頭では前に第5表で示したように約半分の101時間であり、多頭化すればするほど1頭当りの管理時間は減少する。

1人の管理頭数は、30～40頭が適当であり、2人であれば80頭の搾乳牛の管理が可能である。

施設では、建物に金のかかるのは搾乳場だけであつて、これは防寒構造とすることと、やや複雑な設備を必要とするので、坪当たり4万円の建築費と、ミルカー、乳処理の機械設備を整備しなければならない。しかしミルカーや乳処理はスタンションでも必要であり、建築費も同じくらいの単価がかかるのである。

他の建物は、全部平屋の簡単な構造でよく、休息舎、バンカーサイロ、乾草給与場などは坪当たり2.5万円程度でよいのである。

スタンション式防寒牛舎で、乾草を屋根裏に付け、塔形サイロ、牛乳処理室、飼料室、尿溜め堆肥場をもつ20頭の搾乳牛舎の場合の建築費は、約472万円に対し、ルーズハウズイングでは320万円であつて、建築費では約3分の2である。

(2) 畜舎建築と建築基準法における問題点について

北海道立中央農業試験場

土田 鶴吉・桜井 允